

---

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

# TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

---

## 東京都感染症週報

2009年第8週  
(2月16日～2月22日)

- \* 2009年2月25日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- \* 今週は感染症豆知識「HIV」も掲載しています。
- \* オセルタミビル(タミフル)耐性ウイルス株の検出状況を  
15頁に掲載しています。

平成21(2009)年2月26日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

---

## 全数把握対象疾患 報告数 2009年8週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		5週	6週	7週	8週	年累計	8週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	78	71	56	57	465	307	3025
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 * 鳥インフルエンザ (H5N1) **							
三類	コレラ							1
	細菌性赤痢				1	4	3	18
	腸管出血性大腸菌感染症				3	5	11	80
	腸チフス	1				1		2
	パラチフス							
四類	E型肝炎		1		2	3	1	5
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎						1	11
	エキノкокクス症					1		2
	黄熱							
	オウム病							1
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					1		1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病			1		2		33
	デング熱					3	1	13
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							2
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア	1	1	1	2	6		10
	野兔病							
ライム病								
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	1		2		12	11	99	
レプトスピラ症							1	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		5週	6週	7週	8週	年累計	8週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	1	4	2	4	25	12	130
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	2	1	1		8	1	29
	急性脳炎***	1	1		2	6	4	45
	クリプトスポリジウム症							
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1		3		14
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					2	1	15
	後天性免疫不全症候群	12	12	11	7	75	18	190
	ジアルジア症	1	1	1		5		6
	髄膜炎菌性髄膜炎							3
	先天性風しん症候群							
	梅毒	4	4	5	4	30	10	98
	破傷風					1	1	7
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					1	2	13
	風しん	1				1	5	21
麻しん	4	3	2	3	19	8	114	
2009/2/25集計								

\* 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*\* 2008年5月12日から指定された。

\*\*\* ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

### (全数把握対象疾患のコメント)

#### 〈二類感染症〉

**結核 57件** 肺結核36件、その他の結核9件、肺結核及びその他の結核2件、無症状病原体保有者9件、疑似症患者1件で、推定感染地は国内56件、モンゴル1件。年齢は10歳代1件、20歳代6件、30歳代7件、40歳代9件、50歳代4件、60歳代6件、70歳代6件、80歳代15件、90歳代3件であった。

#### 〈三類感染症〉

**細菌性赤痢 1件** ソンネで、推定感染地はフィリピン、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。  
**腸管出血性大腸菌感染症 3件** 有症状者2件、無症状病原体保有者1件で、血清型・毒素型はO157(VT1VT2) 1件、O157(VT2) 1件、O157(VT1) 1件であった。年齢は10歳未満1件、10歳代2件であった。

#### 〈四類感染症〉

**E型肝炎 2件** 推定感染地は都内1件、ネパール1件で、推定感染経路はともに飲食物による経口感染であるが原因食品等の詳細は不明。  
**マラリア 2件** 1件は三日熱マラリアで推定感染地はエクアドル、他の1件は熱帯熱マラリアで、推定感染地はナイジェリアであった。

#### 〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 4件** すべて腸管アメーバ症で、推定感染地は国内3件、ベトナム/カンボディア1件、推定感染経路は飲食物による経口感染1件、不明3件であった。  
**急性脳炎 2件** 病原体はインフルエンザウイルスA型1件、不明1件で、患者年齢はともに5歳未満であった。  
**後天性免疫不全症候群 7件** 無症候性キャリア3件、AIDS 4件で、推定感染地は国内5件、タイ1件、不明1件、推定感染経路は性的接触5件(同性間3件、異性間1件、両性間1件)、不明2件であった。  
**梅毒 4件** 早期顕症Ⅱ期2件、無症候2件で、推定感染地はすべて国内、推定感染経路はすべて性的接触(異性間3件、性別不明1件)であった。  
**麻しん 3件** 麻しん(臨床診断例)1件、修飾麻しん(検査診断例)2件、年齢は10歳未満1件、10歳代1件、40歳代1件であった。麻しん含有ワクチン接種歴は1回1件、不明2件であった。

## 定点把握対象疾患 報告数 2009年8週

定点種別	対象疾患	2009年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		5週	6週	7週	8週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	5	7	6	9	0.06	148	150
	咽頭結膜熱	18	31	32	33	0.22		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	296	347	291	274	1.85		
	感染性胃腸炎	1,022	944	913	1,040	7.03		
	水痘	132	192	176	183	1.24		
	手足口病	11	5	7	6	0.04		
	伝染性紅斑	29	31	30	15	0.10		
	突発性発しん	68	72	55	80	0.54		
	百日咳	7	4	2	6	0.04		
	ヘルパンギーナ	5	3	3	2	0.01		
	流行性耳下腺炎	61	47	62	64	0.43		
	不明発しん症(注1)	11	6	9	8	0.05		
	MCLS(川崎病)(注1)	2	1	3	1	0.01		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	8,582	4,921	3,013	2,183	7.61	287	290
眼科	急性出血性結膜炎	1	2	1	3	0.08	38	39
	流行性角結膜炎	7	14	7	16	0.42		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	2	1	0	0	0.00	24	24
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	6	4	4	5	0.21		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	3	2	0	0.00		
2009/2/25集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病)は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

# 風しん、麻しん、成人麻しんは2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

### (定点把握対象疾患のコメント)

- ・百日咳の定点当たり報告数は増加した。過去5年平均の同時期よりも高いレベルとなっており、注意が必要である。
- ・インフルエンザの定点当たり報告数は3週連続して減少した。過去5年平均の同時期よりも低いレベルとなっている。

### (定点医療機関からのコメント)

\* インフルエンザに関するコメントは13-14頁にまとめて記載しました。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2009年8週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	1			7	2			1		
～11か月	2	2		51	7			30	2	
1歳	4	7	6	103	30	2	1	43	1	1
2歳	2	14	17	91	41	1	2	4		
3歳		3	20	79	28	1	2	1		
4歳		3	33	86	28	1	1			
5歳		2	32	79	16		3			
6歳			29	84	9		2			
7歳			32	55	11	1	3		1	
8歳		2	25	49	6			1		
9歳			26	39	1		1		1	
10～14歳			34	129	3				1	1
15～19歳			2	30	1					
20～29歳			18	158						
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	9	33	274	1040	183	6	15	80	6	2
先週比	3	1	-17	127	7	-1	-15	25	4	-1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月				6		
～11か月	1			21		
1歳	3	5	1	67		
2歳	2	1		62		
3歳	11			100		
4歳	7			153		2
5歳	12			151		1
6歳	5			159		
7歳	4			198		
8歳	4	1		193		
9歳	9			134		
10～14歳	3			436	1	
15～19歳	1			72		1
20～29歳	2	1		108		1
30～39歳				136	1	3
40～49歳				116		3
50～59歳				39		2
60～69歳				25		2
70～79歳				7		1
80歳以上						
合計	64	8	1	2183	3	16
先週比	2	-1	-2	-830	2	9

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

## 全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2009年8週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		1
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		1
15～19歳		
20～29歳		
30～39歳		
40～49歳		1
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計		3

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2009年8週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	1			11						
中央区		4		4	9			4		
みなと		10	8	62	12		1	5		
新宿区			5	20	5			1		
文京			2	15	2	1				
台東			1	32				1		
墨田区			8	28	1			2		
江東区		1	5	67	3		1	4		
品川区		1	12	38	8	2	1	3	1	
目黒区			4	13	4		1	2		
大田区	2	8	11	67	12	1	7	5		
世田谷			17	71	11		2	2		
渋谷区		1	1	25	5			5		
中野区			4	57				1		1
杉並			7	42	1			2		
池袋			1	24				1		
北区			1	38	2			5		
荒川区			8	22	9					
板橋区				21	5					
練馬区			8	23	7			1		
足立			5	27	9		1			
葛飾区			14	14	3			2		
江戸川	2		50	49	5			4	1	
八王子市		4	34	58	16			6	1	
西多摩			1	21	9			1		
南多摩	2		14	23	5			2	3	
町田	1		24	39	15	1	1	10		
多摩立川			10	15	7					
多摩府中		1	6	36	6			6		
多摩小平	1	3	13	61	9	1		5		1
島しょ				17	3					
東京都合計	9	33	274	1,040	183	6	15	80	6	2

全数把握対象疾患  
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】2009年8週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				4		
中央区	2			11		2
みなと				40		
新宿区	1			35		2
文京	2			31		
台東	2			11		
墨田区	2			37		
江東区	8			69		
品川区				41		
目黒区				7		
大田区	1	1		119		
世田谷	2	1		116		
渋谷区	2			36		2
中野区				71		
杉並	2			105		
池袋		1		34		
北区				31		
荒川区	4			12		1
板橋区		1		43	1	1
練馬区	8			101		
足立	1			47	1	2
葛飾区				84	1	1
江戸川	6			89		
八王子市	8	2		156		
西多摩	2		1	170		
南多摩	1			53		1
町田	5	2		119		
多摩立川				93		
多摩府中	1			161		1
多摩小平	4			244		3
島しょ				13		

東京都合計	64	8	1	2,183	3	16
-------	----	---	---	-------	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		1
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		1
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		1
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計		3
-------	--	---

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2009年8週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	0.25			2.75						
中央区		1.33		1.33	3.00			1.33		
みなと		1.67	1.33	10.33	2.00		0.17	0.83		
新宿区			0.83	3.33	0.83			0.17		
文京			0.67	5.00	0.67	0.33				
台東			0.33	10.67				0.33		
墨田区			2.67	9.33	0.33			0.67		
江東区		0.25	1.25	16.75	0.75		0.25	1.00		
品川区		0.17	2.00	6.33	1.33	0.33	0.17	0.50	0.17	
目黒区			1.33	4.33	1.33		0.33	0.67		
大田区	0.22	0.89	1.22	7.44	1.33	0.11	0.78	0.56		
世田谷			2.13	8.88	1.38		0.25	0.25		
渋谷区		0.25	0.25	6.25	1.25			1.25		
中野区			0.67	9.50				0.17		0.17
杉並			1.17	7.00	0.17			0.33		
池袋			0.20	4.80				0.20		
北区			0.25	9.50	0.50			1.25		
荒川区			4.00	11.00	4.50					
板橋区				3.50	0.83					
練馬区			1.60	4.60	1.40			0.20		
足立			1.00	5.40	1.80		0.20			
葛飾区			4.67	4.67	1.00			0.67		
江戸川	0.40		10.00	9.80	1.00			0.80	0.20	
八王子市		1.00	8.50	14.50	4.00			1.50	0.25	
西多摩										
南多摩	0.50		3.50	5.75	1.25			0.50	0.75	
町田	0.25		6.00	9.75	3.75	0.25	0.25	2.50		
多摩立川			1.67	2.50	1.17					
多摩府中		0.11	0.67	4.00	0.67			0.67		
多摩小平	0.17	0.50	2.17	10.17	1.50	0.17		0.83		0.17
島しょ				17.00	3.00					

東京都	0.06	0.22	1.85	7.03	1.24	0.04	0.10	0.54	0.04	0.01
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

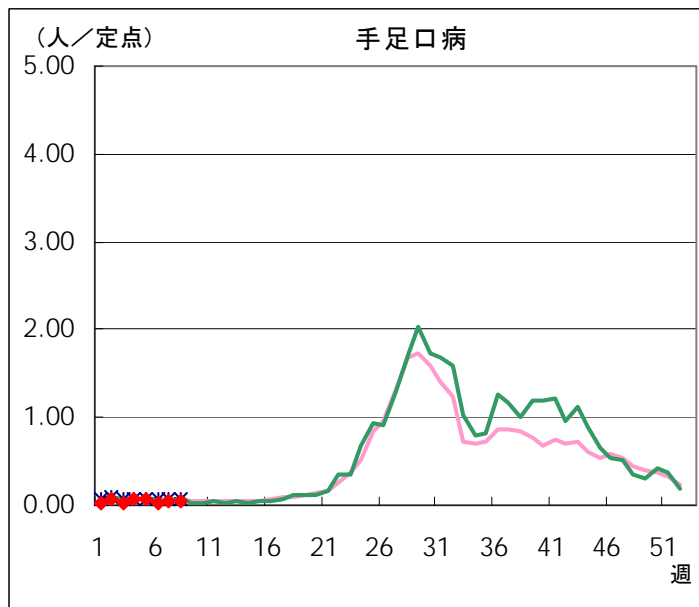
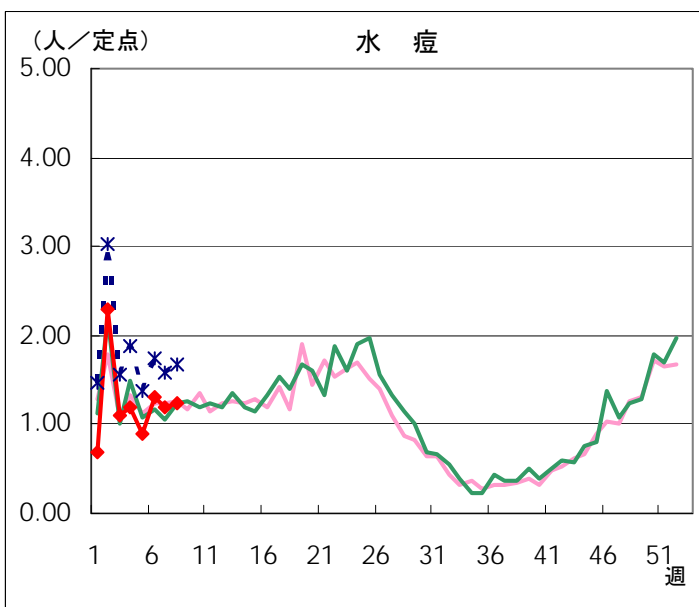
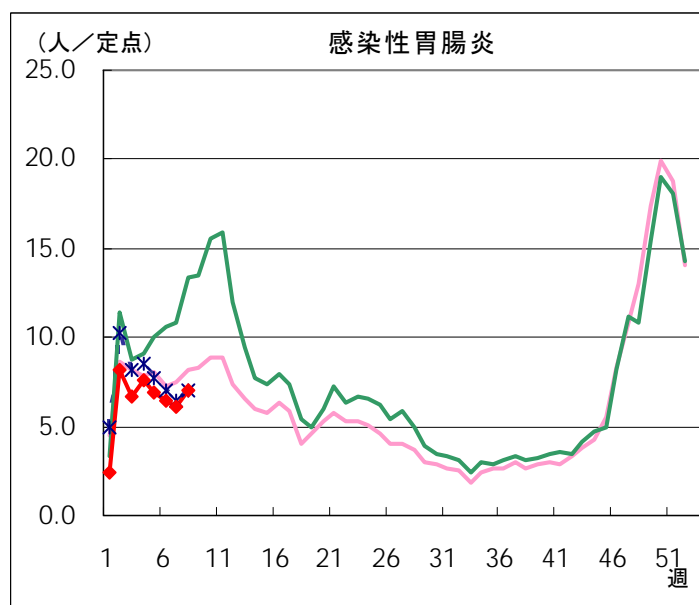
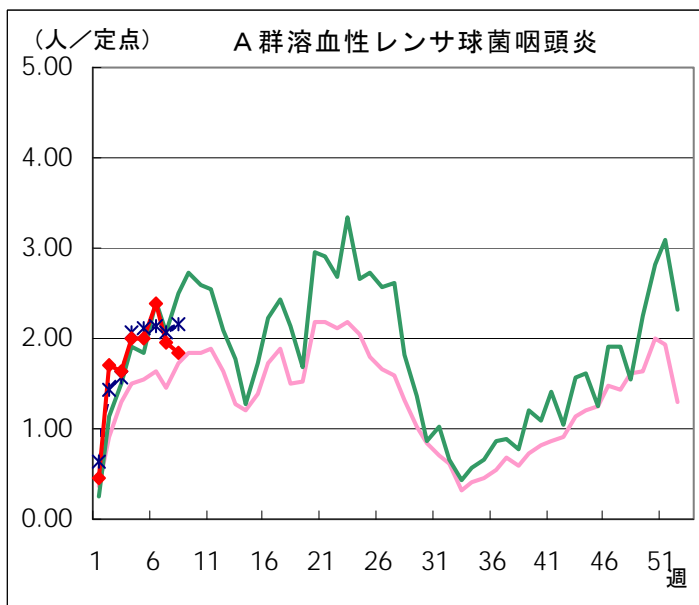
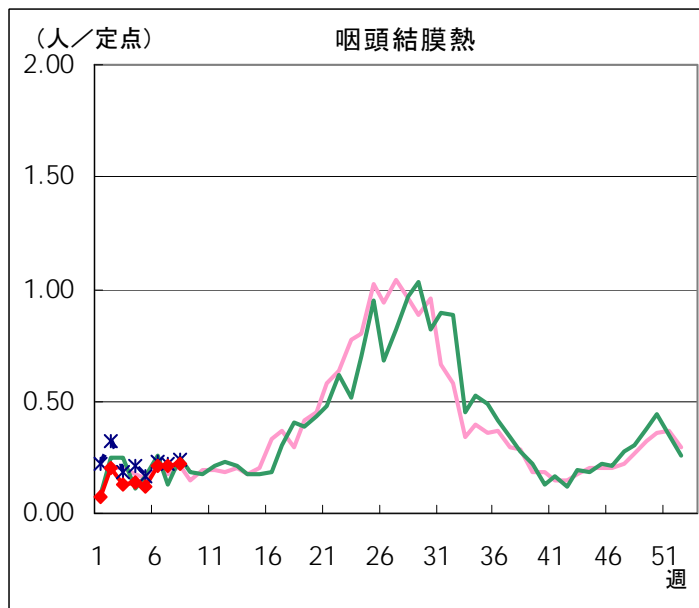
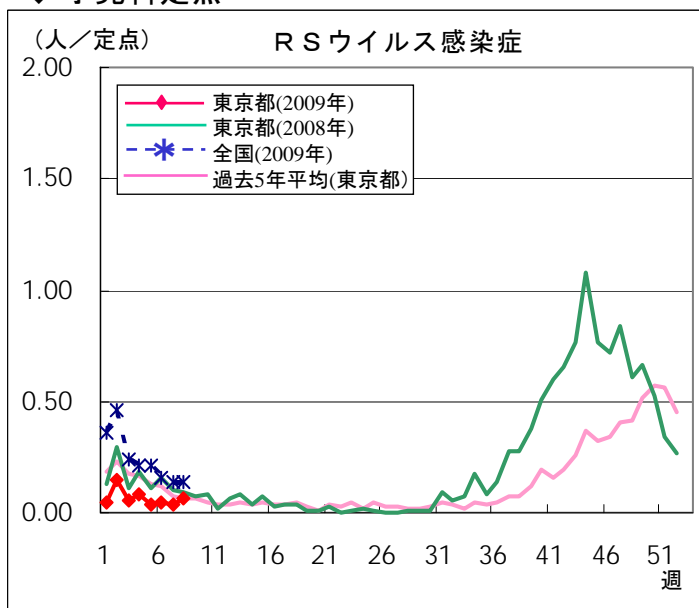


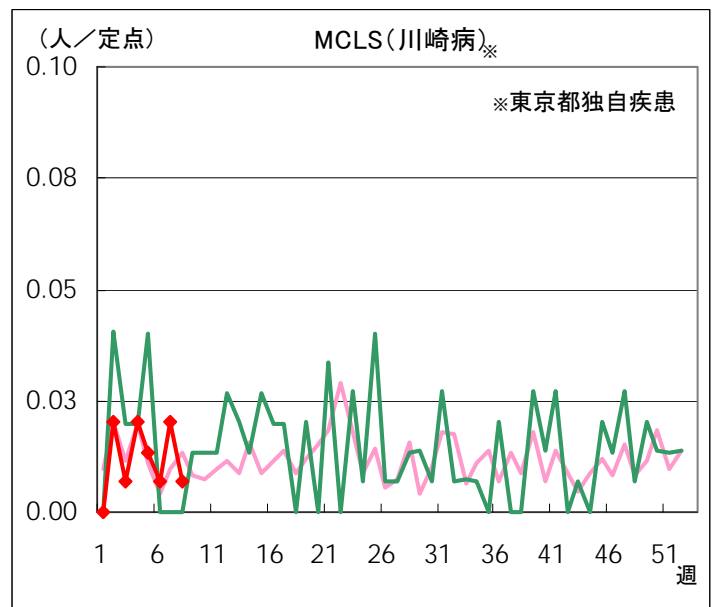
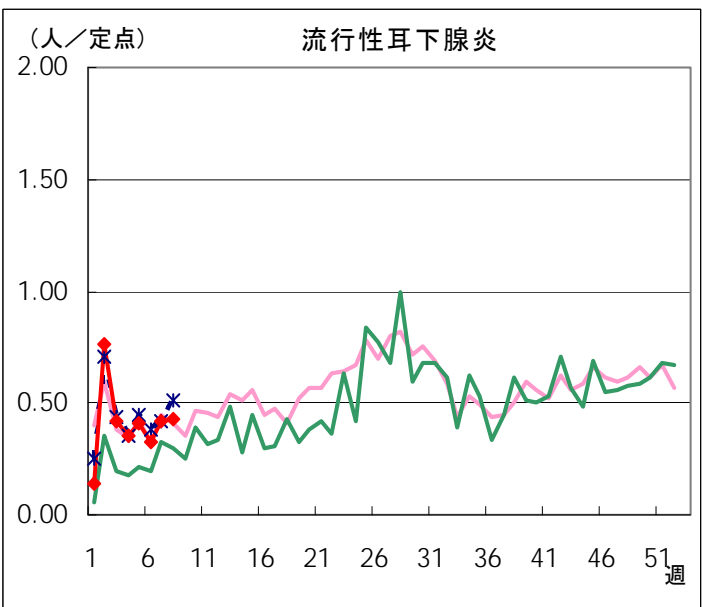
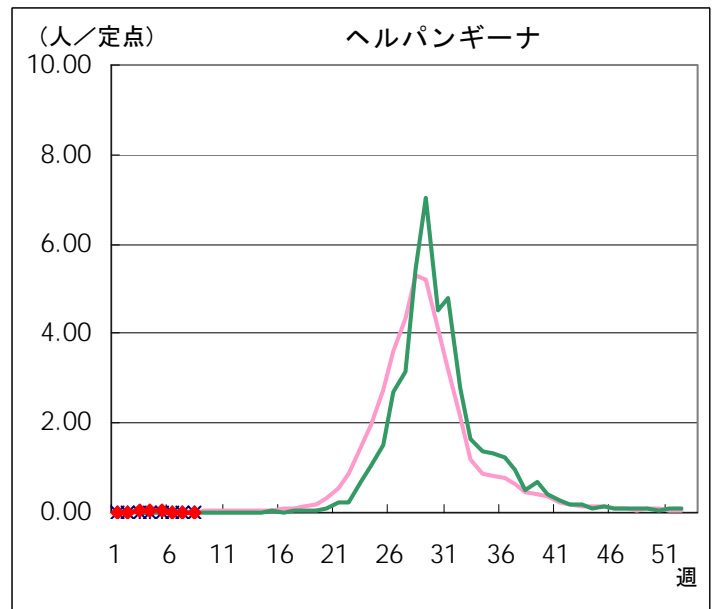
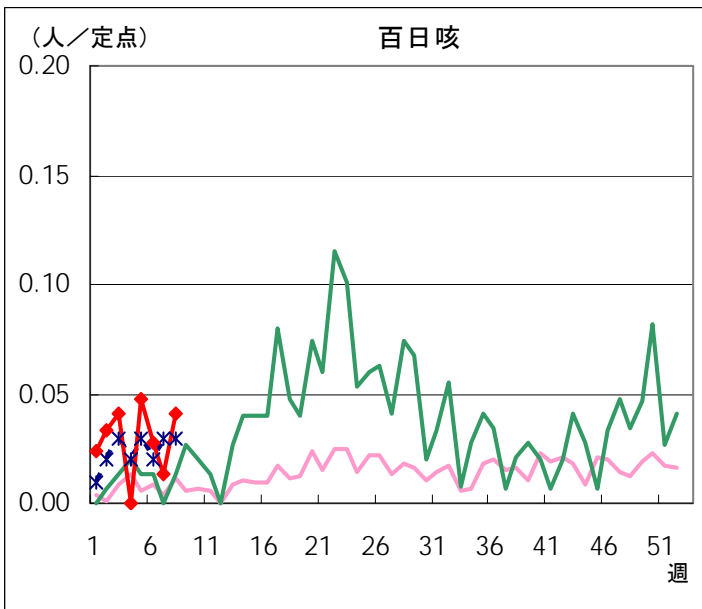
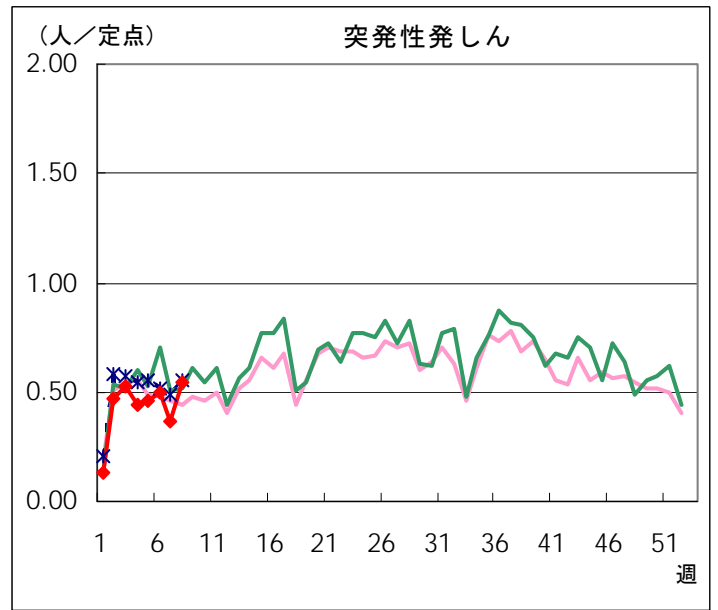
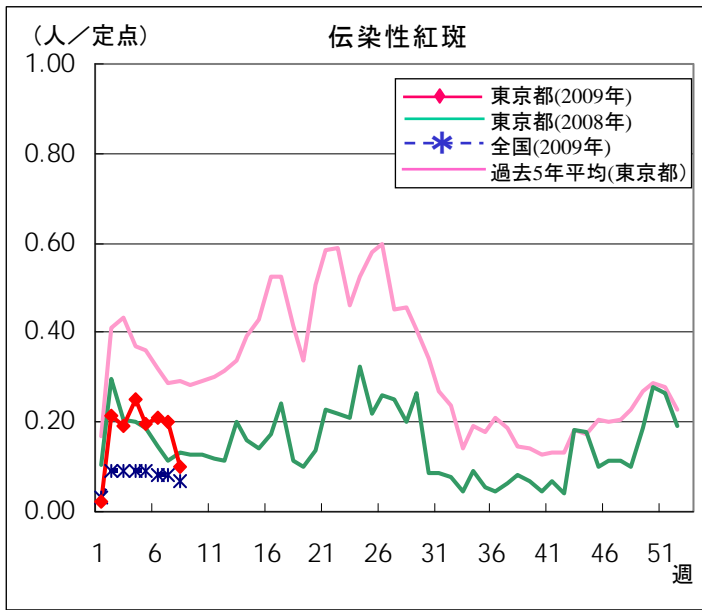
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				0.80		
中央区	0.67			2.75		2.00
みなと				5.00		
新宿区	0.17			3.89		1.00
文京	0.67			6.20		
台東	0.67			2.20		
墨田区	0.67			6.17		
江東区	2.00			7.67		
品川区				4.10		
目黒区				1.17		
大田区	0.11	0.11		7.44		
世田谷	0.25	0.13		7.73		
渋谷区	0.50			6.00		
中野区				7.89		
杉並	0.33			8.75		
池袋		0.20		4.25		
北区				3.88		
荒川区	2.00			3.00		1.00
板橋区		0.17		3.58	0.50	0.50
練馬区	1.60			8.42		
足立	0.20			3.92	0.50	1.00
葛飾区				10.50	1.00	1.00
江戸川	1.20			7.42		
八王子市	2.00	0.50		15.60		
西多摩				18.89		
南多摩	0.25			5.89		1.00
町田	1.25	0.50		13.22		
多摩立川				7.15		
多摩府中	0.11			8.05		0.50
多摩小平	0.67			17.43		1.50
島しょ				6.50		

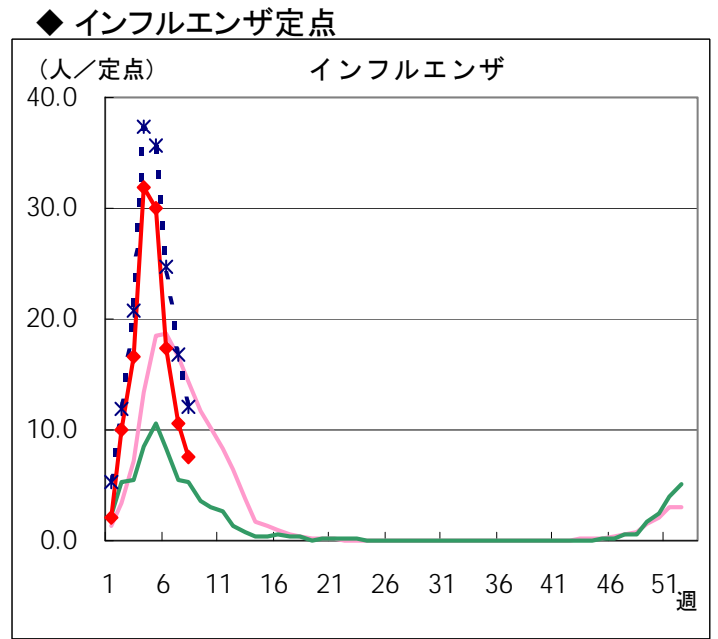
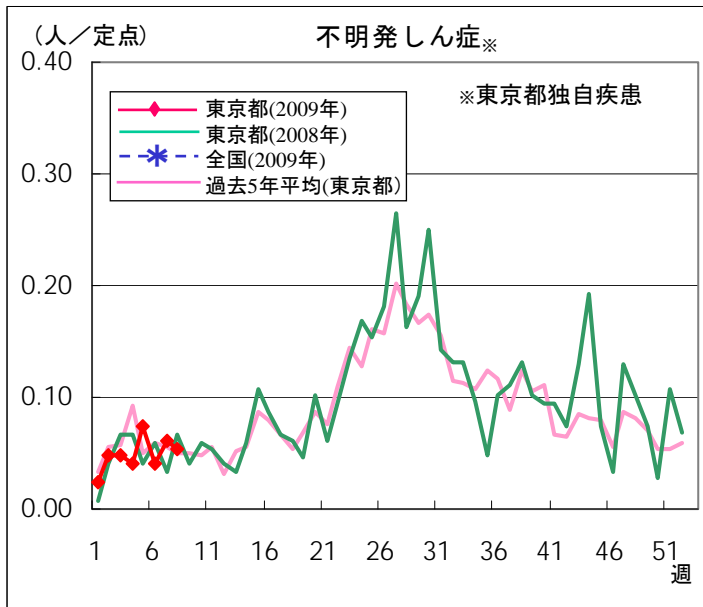
東京都	0.43	0.05	0.01	7.61	0.08	0.42
-----	------	------	------	------	------	------

# 定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2009年8週現在

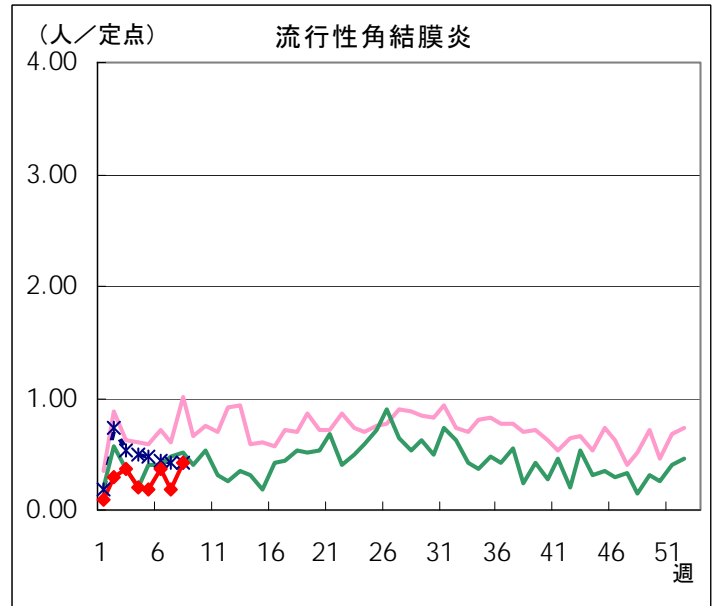
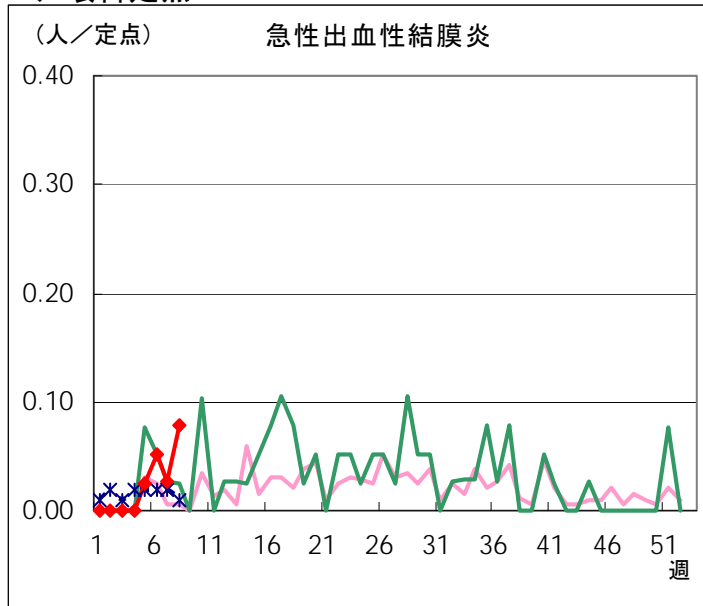
## ◆ 小児科定点



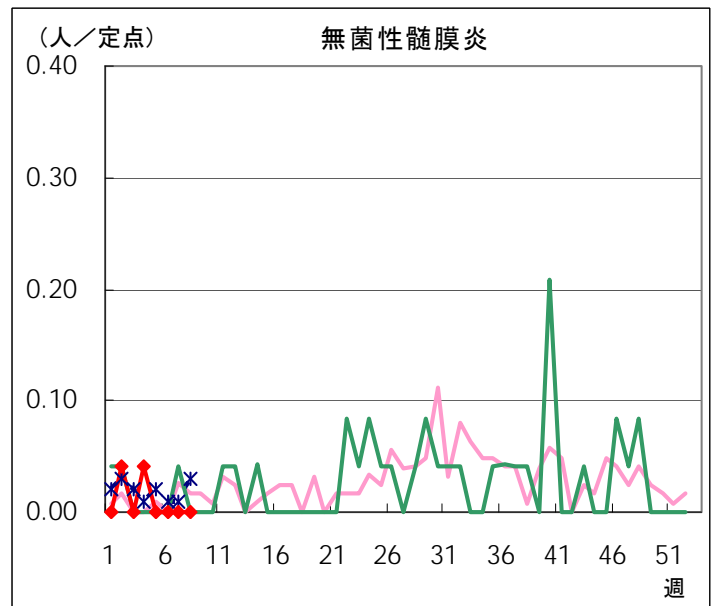
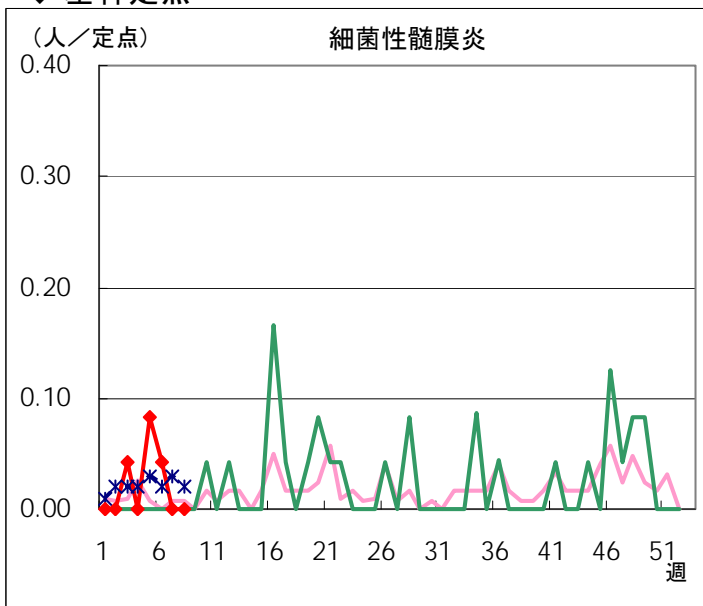


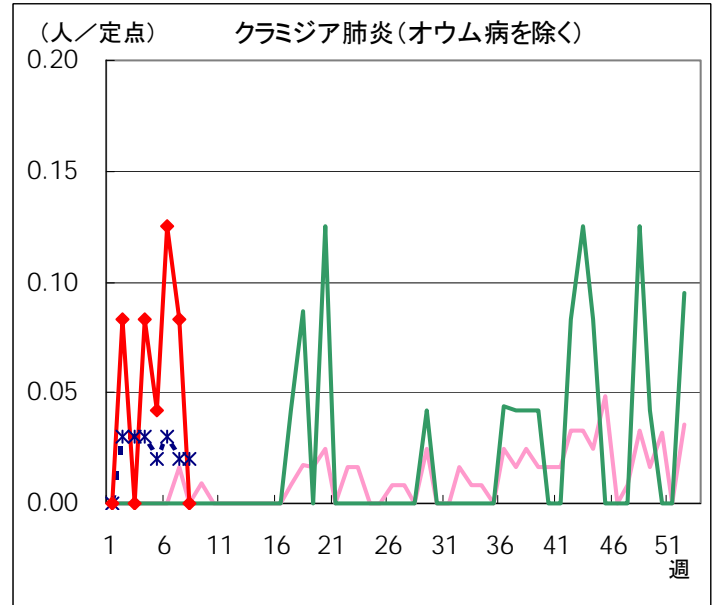
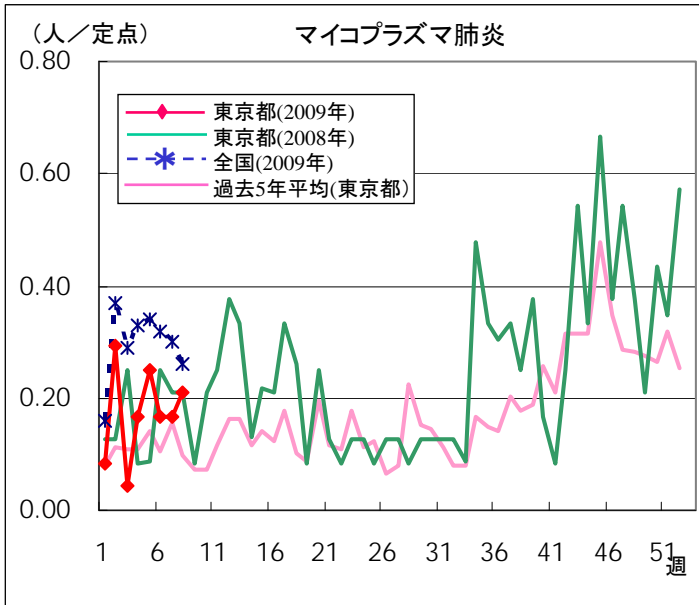


◆ 眼科定点

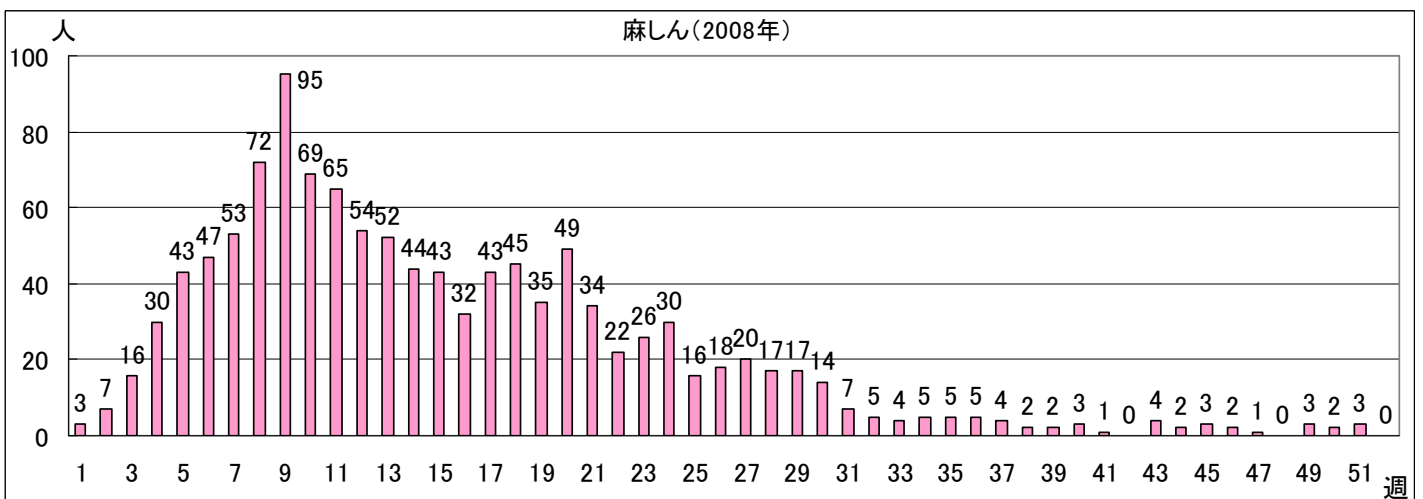
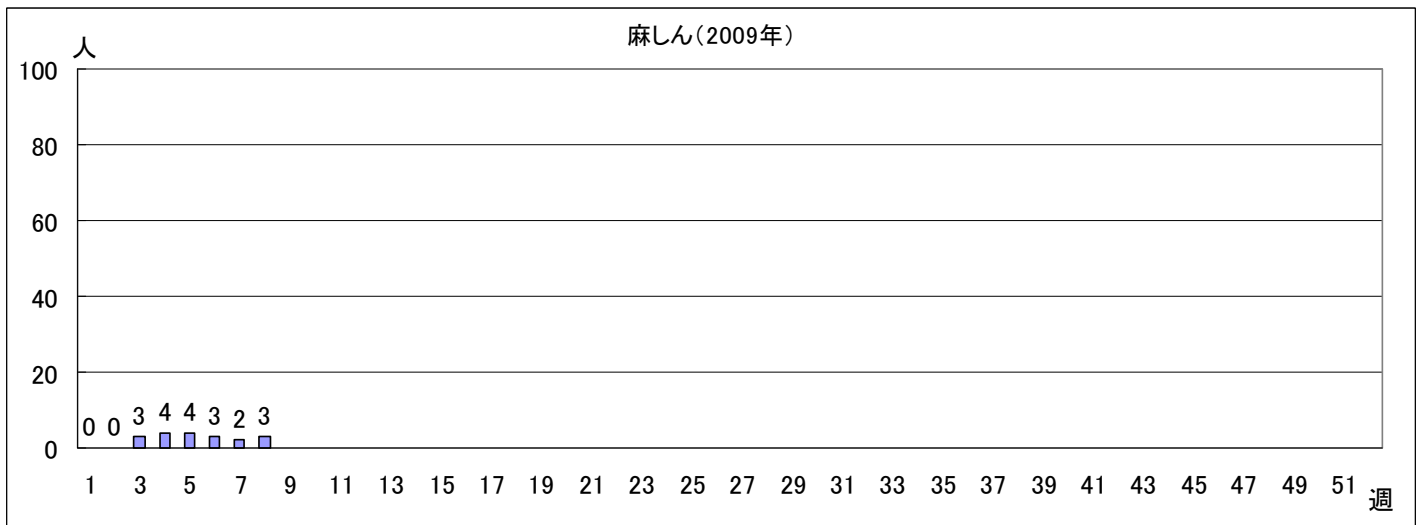


◆ 基幹定点





**全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2009年8週現在**



## 定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果等に関わるコメントをいただきましたので、コメントのあった医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
みなと	3	1	9歳児インフルエンザB型。
		2	
	11	5	
新宿区	1	2	
	2	4	
	1	2	
	2	4	
台東	6	1	6歳児インフルエンザB型。
		2	
	2		
江東	4	2	
	17	8	
	1		
	7	2	
品川区	2		
	6	6	
	1	1	
目黒区		1	患者は、前回A型に感染、今回はB型。
	2		
		1	
	2		
大田区	6	4	他2名
	8	5	
	21	1	
	2		
	2		
	2		
	5	11	
世田谷区	3	2	7歳、10歳はB型(同小学校)。8歳はA型(他の小学校)。ともに学級閉鎖あり。 他1名
	1	2	
	1	3	
	3	1	
	1	3	
	9	9	
	1	1	
	1	0	
渋谷区	1	7	
	3		

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
中野区	1	4	A型1名、B型4名、A型とB型ともに陽性1名。(全6名)
	1	6	
	5	11	
	5	6	
		7	
		7	
	8	1	
	4	1	
池袋	2	1	
	1	2	
	4	1	
北区	7	1	4歳児1名のみB型。
	7	1	
西多摩			インフルエンザはピークを過ぎ、消退に向かっているようです。 B型も散見されます。(全4名)
	4	20	
	4		
	22	15	
	1	2	
多摩立川	6	1	
	6	4	
	7	2	B型:3歳・10代。
	8	5	A型:4歳/5歳/11歳/35歳/37歳/39歳/45歳/74歳(予防接種無) B型:4歳2名/6歳2名/8歳 臨床診断:44歳
	2		
多摩府中			市内小学校の2～4年生で大流行です。(全37名)
多摩小平	4		
	3		
	1	1	
	4	28	
	9	18	
	15	14	
			再び学級閉鎖が増加の傾向にあるようです。(全53名) B型主体で、B型にもリレンザ無効例があります。
	1	12	
11	8		
八王子市	6	2	
	7	10	
	20	22	
	1		
	1		
	9	1	
	8	6	
16	20		
	30	3	

## 病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

\*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
1/27	髄膜炎 心内膜炎(TSS疑い)	33	菌株(髄液)	MSSA (コアグララーゼⅢ型)	血清型
2/5	感染性胃腸炎	3	糞便	ノロウイルス	遺伝子
2/5	中毒しん	7M	咽頭拭い液	ライノウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
2/9	不明熱	9M	記載無し	ヒトヘルペスウイルス6型	
2/9	肺炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス	
2/9	咽頭炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
2/10	発しん、水疱	8M	皮膚病巣	単純ヘルペスウイルス1型	
2/10	咽頭結膜熱	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、ライノウイルス	
記載無し	急性気管支炎	11M	咽頭拭い液	アデノウイルス	
記載無し	急性胃腸炎	1	糞便	アデノウイルス	

◇定点医療機関から搬入された検体の遺伝子検査法による亜型

亜型検出件数	インフルエンザウイルス		
	AH1型	AH3型	B型
7週	28	9	4
今シーズン累計	191	87	18

### オセルタミビル(タミフル)耐性ウイルス株の検出状況

2/25現在

調査方法	A/H1N1分離株	耐性株
感染症発生動向調査	15	15
学級閉鎖等	17	17

詳しくは<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/flu/>を参照下さい。



病原体検査情報 【検出病原体別・週別】

検出病原体		2008/2009年							
		51週	52+1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週
ウイルス	アデノウイルス	9	9	2	3	7	12	3	4
	ライノウイルス	10	2	4	2	2	6	4	2
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71							1	
	その他のエンテロウイルス	8	10	2	6	4	4		
	単純ヘルペスウイルス	1			2		3		1
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	7	5	4	3	2	4	7	2
	EBウイルス	2	3	5	3	2	1		
	サイトメガロウイルス		1	4	2	4		3	
	ムンプスウイルス	1	4	3	3	1	2	2	
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19	1	1			1			
	RSウイルス	7	1			1	1	1	1
	ノロウイルス	11	4	2	6	2	3	1	1
	ロタウイルス		1		1			2	
	インフルエンザウイルスAH1	8	6	18	13	29	20	59	28
	インフルエンザウイルスAH3	2	7	8	7	9	9	22	9
インフルエンザウイルスB			1			2	5	4	
デングウイルス									
その他のウイルス	1								
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌						1		
	溶血性レンサ球菌	1	1				1	1	
	その他の細菌		1	1			2	1	1
その他の病原体					1	1	1		

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2008年51週～2009年7週

臨床診断名 検出病原体	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	ヘル パン ギー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数	291	40	32	60	46	2	5	4		5	3	35	17	2	1		123	
ウ イ ル ス	アデノウイルス	14	7	5	4	1	1	2		2		3	2				8	
	ライノウイルス	2	8	4	2		1			1	1	1	4				8	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	4	1	1	7	4		1		3		3		1				9
	単純ヘルペスウイルス	1										1						5
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7		1							2		11	1		1			18
	EBウイルス	1				2						1	2	7				3
	サイトメガロウイルス					1							12					1
	ムンプスウイルス					2								13				1
	麻しんウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											2	1					
	RSウイルス	1	3	7														1
	ノロウイルス		2		27													1
	ロタウイルス				4													
インフルエンザウイルスAH1	175	4															2	
インフルエンザウイルスAH3	71	1	1															
インフルエンザウイルスB	12																	
デングウイルス																		
その他のウイルス				1														
細 菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																1	
	溶血性レンサ球菌							3										1
その他の細菌		3					2										1	
その他の病原体		1	1														1	

## 感染症豆知識

### H I V

H I Vは血液由来ウイルスで、血中ウイルス量は、病期により異なるが、大体H B Vの $10^8/\text{ml}$ に対して $10^3/\text{ml}$ 程度。一般に血中ウイルスは1/1000程度の濃度で精液などに移行する。H B VとH I Vとの周産期母子感染率は各々9/10、1/5、注射針誤刺、膾性交では1/3、3/1000程度とされる。H I V感染経路は日本では輸血、血液製剤、母子感染が遮断され、歯科処置、口内炎、ささくれなど日常生活の接触による報告例はなく、可能性は否定できないが事実上セックスに限られる。日本の累積感染者数は、米国の100万超に対して約15,000と少ないが、先進国中唯一右肩上がりの増加が続いている。感染者の差別、差別意識、H I V検査不十分が問題点である。

南新宿検査・相談室（南新）は、都の都医師会委託による「欧米でH I V抑制に有効とされた匿名、無料の相談室」である。年間1万超の受検者から約100人の陽性者を見出す。2008年までの4年間の455人の陽性者のうち、女性は日本人1、中国人1、タイ人1の合計3（0.67%）のみで、他はすべてアナルセックスのあるMSMであり、アナルセックスのない陽性者はいない。男女比がこれほど一方的なS T Dは他にはなく、アナルセックスのリスクは突出している。厚労省統計の2007年の男女比は9.5対0.5、欧米東アジアでは女性の静注薬常用者が少なくないため女性比率が日本より高い。欧米では25年間約8対2で推移している。フェラチオのリスクはアナルセックスの1/100とされるが、これを仕事とする女性の数がおそらく先進国中最多である日本での女性感染者数の少なさから、高リスクとは考えられない。吉原地区で20年来C S Wの健康管理を続けられた植村元都サーベイランス委員によれば、日本人C S Wの陽性者はこれまで皆無である。H I V治療薬開発は続き、服薬は容易化し、死亡例は減少している。

（文責 東京都南新宿検査・相談室長 小島弘敬）